

1 学校として目指す授業

協働問題解決能力の育成を目指し、基礎的な力、他者と共に考える力、他者と共生できる力、社会の中で実践する力を育む授業

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（6年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
・国語では、「書くこと」の領域において、目的や意図に応じて自分の考えを表現することに課題が見られる。 ・算数では、「図形」の領域においてのみ全国平均を下回っており、特に、図形の特徴や性質についての理解に課題が見られる。 ・理科では、全領域において全国平均を下回っており、どの領域においても、基礎・基本の定着を図る必要がある。	・「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いませんか」という質問に対しては、「当てはまらない」と回答している児童が複数いることから、思考力・判断力・表現力において課題があることが分かる。 ・「読書は好きですか」という質問に対しては、約半数が「どちらかといえば、当てはまらない」と回答しており、学校でも読書に取り組んでいる児童は少ない。

(2) 清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（4～6年生）

学習内容の理解における肯定的な回答が児童の80%以上占めている。
各教科を得意と回答したのは、算数が85%に対し、国語、社会、理科60～70%となっている。これは、算数少人数担当教員が配置され、児童の習熟度に分かれ、よりきめ細やかな指導の成果だと分析できる。
学習の進め方に関し、「確実にできるようになるまで、繰り返し練習している」と「学習をしてもできるようにならないときは、学習方法を工夫している」に対して40%近くの児童が否定的な回答をしている。学習に対して意欲はあるのでその意欲を大切に、分からない時にはどうしたらよいかを具体的に指導していく必要がある。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析（5年生）

・国語、算数共に「基礎内容」・「応用内容」のどちらも、清瀬市の平均を下回る結果となった。特に、国語の「書くこと」においては、市平均より11.5ポイント下回った。書くことにおいては、日々の学習の中に書く活動や表現活動を入れていく。
・教科別に見ると、国語は「書くこと」の他に、「読むこと」の領域でも市平均を下回っている。これは、説明文の読み取りや、文章の要約をすること等に苦手意識をもっている児童が多いからである。算数は、「データの活用」が市平均を大きく下回った。総じて、漢字の読み書きや計算については力がついてきているが、資料等の読み取りについては課題がある。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
東京都統一体力テストでは、主に「敏捷性」や「巧緻性」、「持久力」に課題がある。児童が楽しく活動しながら「敏捷性」等を高めていけるようにしていく。体育科では、鬼遊びの運動などを取り入れ、運動の行い方や動きの工夫を学ぶと共に、運動の日常化を図り、休み時間などにも行うようにしていく。

3 児童の学力・学習状況等の課題

・低学年の基礎・基本の問題（足算・引算・平仮名・片仮名）でつまずいている児童がおり、既習事項を生かした学びにつなげることが出来ていない。
・中高学年では、問題の文意やイメージを捉える力が低く、未解答が多い。文章や問題をよく読んで理解できるように粘り強く考える力が必要がある。
・学習課題に対して消極的になりがちだったり、最後まで粘り強く取り組みなかったりする児童が多く、様々な学習経験を通して達成感が得られるようにする必要がある。

4 学校全体の授業改善の視点

基礎・基本の反復と、問題解決のために考えを深めたり広げたりと主体的・対話的に取り組める効果的な学習活動の設定

【授業改善推進プランの活用法】
①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。
⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	・平仮名、片仮名、漢字の反復練習の期間を十分にとる。 ・文章を繰り返しよく読んだり友達と意見を交流する場面を取り入れたりする。				反復により基礎・基本の定着を図る。既習事項を基に考え立式し、図などで表現する場面を設定する。				日常生活と学習活動を結び付け、自分の考えを表現する時間を積極的に設定する。		知識・技能の定着のために、楽しみながら、スモールステップで学習を積み重ねる活動を取り入れる。		描く・作るを基本として、表現する楽しさを味わえるようにいろいろな活動を体験させていく。				学習のめあてを自分たちで設定し、できるようになったことを振り返って全体で共有する時間を設定する。				自分の考えを表現し、友達と議論する時間を設定することで学びを広げられるようにする。	
中学年	・漢字の反復練習の期間を十分にとる。 ・文章を繰り返しよく読んだり、話の中心に気を付けて聞き、質問や感想を述べる時間を取り入れる。		単元の学習後自分は何ができるかを考え学んだ事象について主体的に行動できるようにする。		既習事項を基に自分の考えを言葉や図、式等で表現し、伝え合う場面を設定する。		自然の事物・現象の変化と要因を関係付けて、予想し観察や実験を行う。				他者との学び合いを通して、自らの音楽表現や考えを広げていくような活動を取り入れる。		基礎・基本の習得のため、繰り返し学習を行えるように活動を設定する。				学習カードや活用して、自分の目標をもって活動できるようにする。ICTなどを活用し、友達同士で教え合ったり、課題を解決したりできるようにする。		歌やゲームなどを通して、英語に慣れ親しみ、慣れ親しんだ表現や語彙を使い、やり取りをしたり、発表したりできるようにする。		道徳の価値項目について、登場人物の気持ちを考えることを通して、自分事として考え、議論できるようにする。	
高学年	・漢字の反復練習の期間を十分にとる。 ・文章を繰り返しよく読んだり、少人数で意見交換し自他の考えの相違点を理解したり、自分の考えを深めたりする場を適宜設定する。		学習課題の予想をすると共に、調べたことをグループ内で発表し合う場を設定し、理解を深める。		既習事項を基に自分の考えを表現し、ICTを活用して考えを共有する活動を積極的に行う。		予想を基に学習を進め、結果から分かったことを友達同士で深め合う活動を取り入れる。				既習事項を次の学びに生かしながら、主体的に学習できるようにする。		既習事項を生かしたり、自分なりの表現を試したりする活動を設定する。		学習したことを日常生活に活用する機会を多く設定する。☑		各時間の学習のめあてを明示し、達成できているかどうかを見て、考えて、判断して、友達に伝え合う活動を設定する。		自分の伝えたい内容について既習の内容を生かして考えて、友達と表現し合う活動を設定する。		読み取り問題にならないよう、自分のこととして捉え、議論できるようにする。	